

安心には目を大きく開けて

赤坂伸一

六年前、ニュージージーランド最大の都市オークランド周辺を家族で訪れた。温暖な気候と安心安全できれいな街並みの印象は今でも脳裏に焼き付いている。でも、日本のような居酒屋はなく、お酒の購入には証明書が必要だし、煙草の吸える場所が少なく困ったが、しばらくここで暮らしてみたいと思った。そのニュージージーランドに住み保育園で働く親戚の女性から昨年電話があり、ヘルニアと診断されたが、六カ月後で手術を受けられないので、江別で手術を受けられるだろうか、との相談だった。

ニュージージーランドの医療は、まず近くの開業医で診察を受け、処方箋を薬局に提示し薬を購入するか、専門病院

の紹介を受けるシステムとのことである。永住権保持者となった彼女は、一部自己負担のみで公立病院で受診できるが、公立病院は待機者が多く、手術まで数カ月待たされるのは当たり前とのこと。

ニュージージーランドには公的健康保険はないので、民間の私立病院で治療を受ける場合、医療費は全額自己負担となり、民間の保険に加入すると費用の一部または全部を保険で賄うことができるとのことである。

結局、彼女は帰国して江別市立病院で手術を受け、療養後職場復帰した。彼女の知り合いのニュージージーランドのある家族は子どもが五人いるが、健康保険に加入しているのは父親だけであ

り、彼女の友人達も保険の未加入者が多く、軽い症状は売薬で済ませているそうである。

この国の年平均所得は三〇〇万円前後で、所得税は一〇・五％から三三％の累進課税のほか、消費税が一・五％であり、その上任意の健康保険料も高いと彼女はいつも家族にこぼしている。

公共部門の行政改革が進み、小泉改革のお手本の国と言われ、公的病院も経営第一主義になり、必要なときに医療にかかれぬ国民が増加しているとのことである。

通例疾病の長期手術待ちは、日本では考えられないことだが、税負担はニュージージーランドに近づいているようだ。

私がいつも気にかけているのは、市の財政と病院経営である。経営に関心を持ち始めたのは、負債が増えて倒産寸前だったお好み焼屋の再建を手伝ったのがきっかけで、一九九〇年に有限会社を立ち上げ、以来約一〇年間、市の最大イベント「やきもの市」でたこ焼き屋を出店しつづけてきた。環境にやさしくとの考えから会社名を「大地」とし、政党「新党大地」設立の一五年前に遡る。

お好み焼き屋はすでに卒業したが、



現在は社長である妻が細々とアパートの管理、備品や独自開発のイベント用長椅子（写真）等のレンタルを行っている。趣味の長椅子は一〇〇本作製し三〇〇人座ることができ、夏のイベントには引っ張りだこだが、経営状態はご推察の通りである。



会社の経理は、以前商工会議所が主催し地元北海道的情報大学で三カ月間学んだ会計ソフトを使用して。病院経営と比べようもないほど経営規模は小さいが、このソフトのおかげ

で難解な会計用語や財務の仕組みに触れて理解することができ、学んでいる最中である。

江別市立病院は、一九九八年の全面改築を経て、患者数が大幅に増加し順調に推移してきた。ところが、二〇〇六年度になって九月末までに内科医一二名が全員退職し、さらに産婦人科医が産科医療の集約化等により退職を余儀なくされた。

全国的な医師不足による医師の再配置とともに、余りにも疲弊していたことが医師退職の主要因だった。一般病棟休止も余儀なくされ、二〇〇六年度と〇七年度の病床利用率は五〇％前後までに落ち込み、〇六年度に一二億七千万円、〇七年度は一〇億円の純損失を計上し、病院経営と地域医療は危機的状況となった。

この間、病院再建のため、夜間急病診療所の分離、医師給与の改善と内部改革に取り組み、北海道の支援や市長と院長はじめ医療関係者のさまざまな努力により、循環器科、産婦人科、内科・総合内科医等の医師が定着し、さらに研修医病院としての機能や地域医療連携など進めるにいたっている。

経営面では、二〇〇八年度に公立病院

特例債の発行が認められて債務の計画的解消が可能となり、さらに私自身も議会で、病院の不良債務解消として一般会計の支援を求めた結果、二年間で四億円の支援をしたことも好転した背景の一つだが、何よりも医療関係者の並々ならない努力に負うところが大きい。

この結果、二〇一一年度決算では、病床利用率が七六％まで回復し、約一四〇〇万円程の純利益を計上したが、なお不良債務は約四億七千万円程残されており、厳しいものがある。

研修医制度により医師から選ばれる病院づくりが不可欠となる一方、診療報酬の引き下げや患者平均在院日数の減少の中で、患者ニーズに 대응することのできる良質な医療と技術・看護など求められ、医療環境は大きく変化している。他方、総合病院は救急、小児、高度精神、産科など不採算部門を抱え、医師研修等に要する経費など交付税だけでは賄い切れず、常に一般会計からの持ち出しも不可欠となっている。財政健全化法の枠組の中で綱渡りの経営を強いられ、医療制度と公的医療の仕組みの改善が急がれる。外国の例を他山の石とし、常に目を大きく開けていきたい。

△あかさか しんいち・江別市議会議員▽